

親愛なるガンディージー（ガンディーさん）。（私は、あなたが「マハトマ（偉大な魂）」の尊称を好んでいなかったことを、本を読んで知りました。なので、私はあえて、あなたをより身近に感じたいため、あなたが好んだ呼び方をさせていただきます。どうかお許してください。）あなたがいま居られます天国からは、今の地上はどのように見えているのでしょうか。

ご存知のように、昨年12月に中国・武漢から広まった新型コロナウイルスの災禍は全世界に広がっています。高齢者だけでなく、基礎疾患を持たない若者でさえも、このウイルスに侵されて命を落としています。また、不安と猜疑に歪んだ心は、国と国、国と地域、そして人々の間に深刻な分断をもたらしています。私も、不安を抱えながら、毎日を過ごしています。

人々は「伝染らない」「伝染さない」ために、マスクをし、会話を避け、「ソーシャル・ディスタンス」と呼ばれる距離を置いています。IT偏重のコミュニケーションを反省して「人と人とのリアルなつながり」が求められるようになった昨今なのに、なんという皮肉なのでしょう。

あなたの名言の一つとして紹介されるものに、「明日死ぬかのように生きよ。永遠に生きるかのように学べ」という言葉があります。私もあなたを敬愛する者として何冊も本を読んではいりますが、私自身はまだこの言葉に直接出会えてはおりません。あるいは、読ん

りを尽くして理想に向かって精進しなければなりません」（森本達雄訳『獄中からの手紙』岩波書店、p.22）。

ここに私は、「死すべきさだめを受け入れながら、毎日を懸命に生きなさい」という意味を読み取りました。もしかしたら、この言葉が改変されて、先に挙げた「ガンディーの名言」になったのかもしれないね。

私も、「僕はきっと大丈夫！」と思いたい反面、「もうじき死ぬのかもしれないから、毎日を懸命に生きなければ！」と思います。

この災禍をめぐっては、様々な言説が飛び交い、混乱に拍車をかけています。私自身は、「人工ウイルス説」や「陰謀論」を簡単に信じることもできないけれど、「自然からのしっぺ返し説」もナイーブすぎると思っています。なにより、この混乱に乗じて暴力的な何かが進められることを恐れます。

この災禍から学んで、どのような社会を作っていくべきなのか。政治、経済、科学技術、そして人の心についても、私は、あなたがおっしゃった「スワラーヂ（自治）」にその鍵があると考えています。ガンディージーよ、いかが思われますか？

アフター・コロナの

目指すべき社会は？

ーガンディーさんへの手紙

松尾 和光

（まつお かずみつ／

静岡市在住）

だのだけれど私が忘れてしまったのかもしれない。なにしろ、あなたはものすごい量の著作や手紙を残したのですから。

ただ、幸いなことに、これに近いと思われる一節を見つけました。「…いっさいの執着心から解き放たれて自由になることが、神を真理として悟ることです。…**肉体の限界を認識しつつ、日々わたしたちは、力の限**